

議長定例記者会見 会見録

日時：令和5年4月14日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 質疑項目

- 三重県議会議員選挙について
- 議員を引退した後について
- 全国都道府県議会議長会について

1 冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。ただ今から4月の議長定例記者会見を開催いたします。本日、発表事項はございませんので、議長任期最後の定例記者会見を迎えて、少し感想を述べさせていただきたいと思います。先月の定例記者会見では、質問をいただいて議長としての一年を振り返らせていただきました。ここでは、県の総合計画である「強じんな美し国ビジョンみえ」と「みえ元気プラン」への取り組み、オンラインを活用した会議の試行、市町議会との連携などを挙げさせていただいたところでございます。本日は、さらに一点付け加えるものとして、議会改革の取り組みについて少し触れたいと思います。令和4年度は、令和元年度に策定した議会活動計画の最終年度でしたので、議員任期4年間を通じた議会活動の評価と次期改選後議会への提言を取りまとめました。外部有識者からの評価やアドバイス、県民意識アンケート結果などを総合的に検証し、議会のさらなる活性化につなげるために、議会活動においてオンラインを活用した取り組みを引き続き進めること、若年層に議会活動の内容が届いていない現状を改善するために、議会に関心を持ってもらう取り組みや主権者教育に資する取り組みに力を入れること、などを提言として取りまとめましたので、改選後議会で適切に対応していただけるよう、次期議長に引き継ぎたいと考えております。以上、一年間、皆さま方や、議員各位、関係者の皆さまのご協力のもと、議長という重責を担わせていただけたことに深く感謝を申し上げます。なお、私事で恐縮ですが、今期をもちまして、5期20年、市議会議員時代を合わせますと36年間の議員活動を終えさせていただくこととなりました。この間、県民の皆さまをはじめ、私を支えていただきましたすべての方々に、心からお礼を申し上げます。私からは以上でございますが、この一年間、私を支えていただき、広聴広報会議の座長としてご尽力をいただき

ました藤田副議長からも、一言ご感想をいただきたいと思います。それでは副議長よろしく申し上げます。

(副議長) それでは私からも、副議長に就任させていただいてからの一年間を振り返って、少し感想を述べさせていただきたいと思います。前回にも少しお話をさせていただきましたが、昨年の5月に副議長に就任して以来、前野議長を補佐するとともに、広聴広報会議の座長として、県議会の情報を広く発信し、県民の皆さまからいろいろな意見を聞かせていただく取り組みを展開してまいりました。一年を振り返りますと、4年ぶりに開催することができました「みえ高校生県議会」が印象に残っております。高校生の皆さんには、県議会や県政に対する理解を深めていただいたと思いますし、我々議員にとっても高校生の意見を直接聞かせていただいたことは大変有意義であったと思っております。また11月に大台町で開催させていただきました「みえ現場 de 県議会」においても、人口減少対策をテーマとして、移住政策や地域おこしなどの活動を通じて地域を盛り上げていただいている皆さま方の声を直接お聞かせいただくことができました。活発な会議となったと感じております。しかし先ほど議長もおっしゃられましたが、次期改選後議会への提言を取りまとめるに当たりまして、議会活動の内容が若年層へ届いていない現状が見えてきました。次期の広聴広報会議では、若年層への取り組みをさらに進めていただくことを期待いたしております。最後にこの一年間、三重県議会の副議長を務めさせていただいたことについて、まずは深く感謝を申し上げますとともに、報道機関の皆さまにおかれましては議会の広報にいつもご協力をいただきました。大変感謝をいたしております。引き続き皆さま方のご協力をよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

(議長) 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2 質疑応答

○三重県議会議員選挙について

(質問) 幹事社からまず先に質問させていただきます。まず、先週投開票が行われました県議選について今の話も絡めながらお伺いしたいんですけども、県議選の投票率が41.52%で過去最低を更新されたんですけど、このことについての受け止めと、何で過去最低になってしまったかっていう要因のところをどう分析されますかっていうところを教えてください。お願いします。

(議長) いろいろ低投票率になった要因は皆さんからもご意見が出てきており

まずけれども、まず第一番は知事選挙と県議会議員選挙が離れてしまったというのが一つの大きな要因ではないかなと思います。それから若者の皆さんの低投票率って言われているんですが、それを示した数字が出ておりませんが、18歳から投票が行えるようになったその後の、いわゆる学校における主権者教育の中での成果がまだいまいち出ていない。そのために若い人たちが投票に行ってもらっていない。それから、やはり時期が悪い。この春の統一選というのは、高校卒業した子どもたちが移動したりする時期でもございますので、その辺が投票に悪い方向で影響が出てるのかなと感じた選挙でございました。残念ながら低投票率ということでございますので、非常に残念なことになっておりますけれども、今後、この方向は見直しをしていく必要があると思っております。

(質問)ありがとうございます。若者の低投票率っていう話で、先ほど議長の挨拶の中でも、副議長の話の中でも、次期の課題だというふうに挙げられていましたけれども、これお二人、広聴広報会議の座長である副議長とお二人にお伺いしたいんですけれども、若者の投票率だったり議会の関心を高めるために、具体的に何か、例えばこういうことをやったらいいんじゃないかとか、今まで高校生県議会だけじゃなくて他にももっと別の取り組みが必要なのか、どういふことが必要なのか何かもしお考えがあれば。

(議長)多分私も副議長も同じように思っていると思うんですが、やはり学校での主権者教育の中で選挙の大切さというものを、もっともっと丁寧に教えていく必要があるのではないかなというのが、まず第一に考えられることだと思います。投票に及ぶ、選挙に及ぶ指導はさせていただいておと思うんですが、さらにそれを深掘をして、しっかりとした、子どもたちに選挙の大切さというのを植え付けてもらうということが大事だと思っています。またこれ余談になるんですけども、私たちが若い頃は、政治に不満といいますか、もっとこんなことをしてほしいという、そんな要望が強かったように思います。私も農業をしております、米価の運動なんかには、東京にもよく、デモにも参加をしたりして、政治に対する思いというものが強かった、今の若い人たちよりも強かったような感じが、自分の経験からいくとしております。それに加えて、今の世代の若い方たちは、素直といったら失礼になるか分かりませんが、政治に強く何かを求めていくという、そんな要因がないのかなあと思ったりもしてまして、それだけ安定した世の中であるのかなと、逆に思えばそんな思いもしているんですが。投票率の低下につながっている大きな要因はその辺にあるのかなと。もう少し政治に関心を持ってもらえるような、政治を動かすことによって世の中がこう変わるんだよっていうそういう、投票に行くことだけを教

えるのではなく、政治に対する興味を持ってもらうという指導をしていかななくてはならないのかなと感じております。

(質問)副議長もお願いします。

(副議長)今議長がおっしゃられたことに私も同感ですけども、広聴広報の座長をやらせていただいた立場から考えると、もう少し、私どもの活動内容の発信ということに注力していく必要があるのかなとは感じております。以上です。

(質問)ありがとうございます。選挙の話に戻りますけれども、選挙を終えられて結果が出まして、昨日とかだと党派構成などもだんだん決まりつつあるのかなって思うんですけども、前回の定例会見でも次期議会に期待することって質問がおそらくあったかとは思うんですけども、その辺を改めてもう一回お伺いしたいんですけども。最大会派だったり第2会派だったりいろいろ党派構成もあると思うんですけども、新しく議員となられる皆さんに、どういう議論を期待したいかとか、どういう姿勢で県議会に臨んでいただきたいかみたいなのところをお伺いしてもいいですか。

(議長)まず、この度の選挙で当選をされた県議会議員の皆さまにおかれまして誠にありがとうございますというお言葉を送らせていただきたいと思います。これからの4年間、二元代表制のもとで、県民の福祉の向上と県勢発展のために力を尽くしていただきたいと思います。特に藤田副議長におかれましては、重責の中、立派な戦いをしていただきまして、見事当選という栄誉を勝ち取っていただきました。誠にありがとうございます。私も4年前に藤田副議長と同じような状況で厳しい戦いをいたしましたので、なるべく議長の仕事を副議長に振らないように心がけてきたつもりでございますが、藤田副議長には、今後も三重県議会の中心的存在として、県政でご活躍をいただきたいと思います。議会の党派構成はこれから皆さん方がご議論をいただいて進めていただくものと思っておりますので、県民の福祉向上にしっかりと頑張ってくださいますことを、私からはお願いをしたいなと思っております。以上です。

(質問)ありがとうございます。最後に幹事社から一点だけ。今回の結果で、議員さんの若干平均年齢も下がるのか、新人さんで若い議員さんも何人か当選されたかと思うんですけども、先ほど、次期でオンラインの取り組みも引き続き続けていくというお話とかもありましたけれど、若手議員さんだったり新人の議員さんあたりに期待することは何かありますでしょうか。

(議長)三重県議会は議会改革の中で、今おっしゃっていただいたオンラインを中心に、これからの議会改革というものを進めて行っていただきたいと思ってまして、私も一年間この議会改革として取り組んできましたデジタル化やオンラインの活用促進をさらに高度なものに高めていただきたいと思っています。いわゆる議会のDXを進めて、私が経験した政治活動の中で、県民の皆さんからいただく現場での要望などにも即座に答えられるように、できたら、県の政策とか予算状況など、いわゆる議会に示されている資料がスマホやタブレットから確認できるようなクラウド化を進めて、そういう資料が即座に外の現場でも見えるという、そんなシステムが構築されていけば素晴らしいなと思っておりますし、それがゆくゆくペーパーレス化にもつながっていくのではないかなと思っております。私が議会活動してこれまで経験してきた中では、公共事業の予定箇所公表資料や、私の場合は津の建設事務所の事業概要等の資料も、スマホのカメラで撮っていつも持ち歩いてまして、地域の皆さん方から要望いただくとそれを見て回答するというような、そして一緒に考えるというような、そんな対策をしてきましたので、それをクラウド化して、スマホからとかタブレットから見えるようになれば、素晴らしい議会活動ができるのではないかなと思っております。若い人たちが当選されてきましたら、ぜひその辺を若い方たちで中心的にやって頑張っていただければありがたいと思っております。

(質問)ありがとうございます。長くなってすいません、幹事社からは以上ですので、各社さん質問あればお願いします。

(質問)一年間本当にお疲れさまでした。また議員活動本当にお疲れさまでした。今回の県議選で被選挙年齢がいわゆる一番最低年齢での25歳の当選者が出ました。今回の統一地方選の中でも、前半戦では全国で最年少の当選者になるかと思うんですけれども、25歳の当選者が出たということについて一言感想をいただけないでしょうか。

(議長)別に年齢に驚くわけではございませんけれども、過去にも若い年齢で何人かの方々が県議会に当選をされてますが、その中でも最年少であるという認識は十分感じておりまして、すばらしいことだと思います。これを契機に、若い人たちもどんどん選挙戦に臨んでいただけるような、その環境づくりのスタートかなとも思っておりますので、ぜひ皆さん方もご支援いただいて、若い人たちが選挙に出られるような、そんな関係を作っていただけたらありがたいと思います。

(質問)続けてすいません。今回、定数削減の中で、定数が51から48にな

る中で迎えた初めての選挙でした。まだちょっと終わったばかりですけども、成果ですとかあるいは見えてきた課題というものが何かあったのか、そこはいかがでしょうか。

(議長) 定数削減といいましても、一部の地域での削減ですので、削減された地域は大変な戦いをされたと思いますし、その一方、無投票に終わった地区もあるわけですので、削減が県民の皆さん方にどんなふうに捉えられたのかなという、まだ分析もしておりませんので、私の立場から今のところを申し上げることはございません。

(質問) 投票率とか最年少とかもろもろありましたけど、とりあえず県議選の結果、当落の結果を受けた率直な印象、ご感想ってどうですか。

(議長) 私の選挙区、津市の選挙区を見てみますと、やはり私がもう一つ早い時期に引退を表明をしておれば、また違った形の選挙戦になったのかなという、一部反省も込めて、そう感じておりますが、しかし若い二人が出ていただいて、真剣に戦っていただいたという、それは十分評価をさせていただきたいと思っております。

(質問) 引き続き今の見通しですと、会派構成、細かくはこれからとして、自民系、新政みえ系とほぼ拮抗^{きつこう}した状態が来期も続くのかなと思われそうですが、そういった形で二つの勢力が比較的同じパワーバランスで議会が運営されるということについてはどのように受け止められていますか。

(議長) 三重県だけが特殊というもまた言葉が間違いの部分もあるかと思いますが、三重県は長らく新政みえさんと自民党という形で、県政の一翼を担っていただいておりますが、これがどうも定着をしておりますので、おそらくこれからも何年、何回選挙を繰り返してもこの形はあまり変化をしないのではないかなと思います。そういう意味からいきますと、两会派を中心に、会派の切磋琢磨した活動が県民の皆さん方の福祉向上に大きく役立っていくと思っておりますので、それはそれで十分、県議会としての二元代表制の機能を十分果たしていると理解をしております。

○議員を引退した後について

(質問) それから、以前もお尋ねしたんですが、まだ決まっていないということでしたので改めてお尋ねしますが、引退後は何をされるかというのはいか

がですか。

(議長) 何をするというのはいませんが、私も年齢が今年、後期高齢者の仲間入りしますので、誕生日を迎えると75歳ということになります。人生の終活という意味で、少し自分の趣味を中心に生活を充実していきたいなと思ってます。何をするということは決めておりません。

- 第二県政記者クラブも含めてお願いします -

○三重県議会議員選挙について

(質問) さっきの投票率の件ですけど、37%台だった知事に言われたくもないけれど、まあまあそこそこの投票率だと思うんですね。結果的にさっき主権者教育うんぬんという、確かに北欧で高校とか中学校とか小学校からそういう主権者教育的なことをやって、確かに投票率が上がっているんですけど、日本の場合は結局日教組とか、あるいは三教組さんが教育現場に政治を持ち込むのはいかんという姿勢が変わらなくて、主権者教育が徹底されてないんですけど、その辺はどうお考えですか。

(議長) 確かにおっしゃるような風潮はあるようには伺っておりますけども、やはりこれは子どもの投票権を得たという権利をやっぱり守るといいますか、教えるということは教育として非常に大事なことだと思っておりますので、そういう抵抗があったとしても、それは理解をいただいて、しっかりと主権者教育の中で投票の大切さというものは教えていってほしいなと思っております。

(質問) 三教組を母体とする県議を多く抱える新政みえにいらっしゃる藤田副議長はどうお考えですか。

(副議長) 教育の中に政治の判断をとということについては、いかななものかという話はあるんですが、要は主権者としてその権利を行使するための投票というこの行為に対して正確に子どもたちに教育をするというのは当然必要だと思っております。

(質問) ただ実態が、かつて成人年齢が引き下げられる前の20歳以上が成人年齢とした時のやられた指針というのが、18歳に下げられてもいまだにまだ教職員組合の中では続いているじゃないですか。その辺はどうお考えですか。

(副議長) 申し訳ありませんけども、私は教職員組合の組合員でないので、内

容についてはちょっと存じ上げませんが、投票行為をするということについての教育は、私は必要だと思っています。

(質問) 新政みえさんの中で今までそういうことで、民間労組と元々教職員組合、自治労が一緒になって新政みえができていますけど、そういう話し合いってというのはされたことあるんですか。主権者教育について。

(副議長) 主権者教育は当然あると思いますし、その中で投票行為を教えるということについて否定的な意見は聞いた記憶がありません。

○全国都道府県議会議長会について

(質問) あと、今回、議長選出されると、全議の会長になる可能性があるんですけど、平成23年、山本教和さんが全国都道府県議会議長会の会長になりましたが、12年経ってそれが巡り巡ってきているんですけど、その辺の事前に中部北陸ブロックの議長とか議会に挨拶しているのは今回、前の事務局長のもとではされていたんですか。前野議長いかがでしょうか。

(議長) 現在は、全国議長会の会長はご承知のように秋田県の議長さんが務めておられまして、就任任期が2年ということで、今年代わられるっていう話は当然伺っております。東海北陸7県にその順番が回ってくるっていう話もありますが、まだ東海北陸7県の議長会のほうで受けるか、誰を、どこの県が議長になるかっていう詳細まで議論をしておりませんので、今のところその方向は分かっておりません。

(質問) 議論うんぬんじゃなくて、平成21年のときに、三谷さんが議長のとときに、全国都道府県議会議長会の中の副会長か何かやられていて、制度を変えたじゃないですか。要は会長任期は2年だと。そこから三重県議会も議長2年制を取り入れていて、今、中部北陸ブロックで議長任期2年のところに当てはまるのは三重県議会しかないんですね。だから前回、山本教和さんが全議の会長になられたわけで、今回も見たところ中部北陸ブロックで議長任期2年制というのは三重県議会だけなんですね。だとすれば当然、今度の議長が全議の会長になる可能性は非常に高いんですけど、そのところはまだ話し合いが十分されてないということですか。

(議長) 2年任期という申し合わせができたのは山本議長がなる前のことだと思うんですが、その後、必ずしも2年ずつで通してきたわけではなく、全国議長会は1年ずつ交代しているところも出ておりますので、今回も2年でいくの

かという、そこまでの話もできておりませんですから、その辺はこれから、もう時間あんまりありませんけれども、しっかり詰めていって議論の課題に上がっていくのではと思います。

(質問)ただ全議会長かかると、より議長選が熾烈化するじゃないですか。普通そう見えますよね。そこはもう各会派である程度冷静に二元代表制の一方として、正當に戦うというか、選んでほしいって話ですね。

(議長)難しいところですけども、三重県議会でもそうなんです、2年という任期を決めながら1年交代にしている現状もありますので、全国議長の会長をしていない県もいくつかまだ東海北陸7県の中でもあるわけですよ。その辺のことも考えると、三重県が2年だからなんとしても2年三重県にさせよということはなかなか言いにくいなという雰囲気も出ておりますので。全国議長会が決めることですので、私が今言ったことがそのまま反映されることはまずありませんので、ご理解をいただきたい。

(質問)ただ全議の会合の中で主張はできますからね。

(議長)はい。

(質問)他はよろしいですか。では、ありがとうございました。

(議長)どうもありがとうございました。

(以上) 11時01分 終了